

保育者養成としての「体育」における「自ら動ける身体作り」についての検討(2)

白梅学園短期大学 若松美恵子

I. はじめに

保育者養成のカリキュラムにおける基礎技能「体育」において、「自ら動ける身体作り」を中核にして学生の身体運動に関する資質の向上を図っている。「自ら動ける身体作り」の具体的な目標は次の通りである。

- ① 運動の極限までのびのびとリズムカルに身体を動かすことができるようにする
- ② 自分で多様な動きを豊富に見つけ動けるようにする
- ③ 動きの連続がなめらかで変化に富んだある感じをとらえた一連の動きを作れるようにする
- ④ 表現したいものになりきって動き、身体で表現できるようにする

以上のことを授業の目標の一部として次のことに留意しながら授業を行なっている。

- ① 毎授業の始めに本時の目標を知らせ、自己の目標をもたせ終わりにはまとめと確認をする
- ② 学生の「恥ずかしさ」に考慮して、一斉に動くようにする。また人とのかかわりを自然にもてるように、さらに各人が主体的に、責任もって動けるように2・3人で動き、最大5・6人のグループとする
- ③ 進め方は自由と即興を柱とするが、各時間最後には発表・鑑賞を行なう

そこで本研究では、昨年に引き続き授業内容や方法が、将来保育者となる学生に、自ら動ける身体を養成するのに妥当であるか、さらに課題を見出そうとするものである。

II. 方法

1. 対象 本校保育科2年生2クラス
計84名(女子79名 男子5名)
2. 授業実施期間 2005年4月～7月
3. 授業の実践
4. 検討の方法 ①教員自身の授業記録 ②学生の2回の自己評価(自己評価Ⅰを5月13日に実施、自己評価Ⅱを7月22日に実施) ③学生の毎時間の記述(学んだこと、感想)

III. 結果および考察

1. 授業の実践(授業目標と内容の概要)
2. 学生の自己評価とその理由

7月22日実施の自己評価の各項目について93～100%の学生が「理解できた」「かなりできるようになった」「かなり楽しんで動く」またはそれに続く「少し理解できた」「少しできるように

なった」「少し楽しんで動く」と回答し、授業の目標の各項目に達成感もっている。

その内容は、Ⅰ. のびのびと大きく動くこと
の理解については、82%の学生が理解できたと答えているが、Ⅱ. のびのびと動くことができるようになるについては、実際にかなりできるようになったと答えているのは50%である。しかし、「少し」も含めれば99%の学生が理解できたと答え、できるようになったと答えている。Ⅲ. リズミカルに動くことを楽しむについては、82%の学生がかなり楽しんで動くと答えているが、Ⅳ. リズミカルに動けるようになるについては、実際にかなりできるようになったと答えているのは55%であった。しかし、「少し」も含めればほぼ全員が楽しむと答え、98%の学生ができるようになったと答えている。Ⅴ. 人の動きを見ることができるようになるについては、76%の学生がかなりできるようになったと答えており、「少し」も合わせると全員ができるようになったと答えている。Ⅵ. 自分で多様な動きを見つける方法が理解できるようになるについては、55%の学生が理解できたと答えているが、Ⅶ. 自分で多様な動きを見つけることができるようになるについては、実際にかなりできるようになったと答えているのは35%に過ぎない。しかし、「少し」も含めれば93%以上の学生が方法を理解できたと答え、できるようになったと答えている。Ⅷ. ある感じをとらえた一連の動きを作る方法が理解できるようになるについては、45%の学生が理解できたと答えているが、Ⅸ. ある感じをとらえた一連の動きを作れるようになるについては、実際にかなりできるようになったと答えているのは35%に過ぎない。しかし、「少し」も含めれば99%の学生が理解できたと答え、95%の学生ができるようになったと答えている。Ⅹ. 身体で表現できるようになるについては、59%の学生がかなりできるようになったと答えており、「少し」も含めれば99%の学生が身体で表現できるようになったと答えている。

以上の結果および評価の理由から、保育者養成としての体育における「自ら動ける身体作り」の目標は、学生の理解を得、ほぼ達成されたと考えられる。なお、自己評価Ⅰについては1回目と2回目では有意な差はなかったが、②のびのびと大きく動くことができるようになるについては、かなりできるようになった学生が増加している。学生の記述からは、毎回授業の目標を明確にし、各授業で繰り返し強調すること、友達の様子を見ること、友達とのコミュニケーションをはかりながら創造的な活動することなどが「自ら動ける身体作り」の育成につながる事がわかる。そしてこれらのことから学生は身体をのびのびと大きく動かし表現する喜びを体験していると言えよう。